

会議録

会議の名称	第5回 西東京市産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	平成22年3月9日 16時00分から17時30分まで
開催場所	西東京市役所 保谷庁舎別棟 B・C会議室
出席者	委員：板橋、奥田、水谷、海老沢、斉藤、田中、本橋 事務局：西東京市生活環境部産業振興課 大和田、森野、杉野、宮坂 コンサルタント：2名
議題	(1) 第4回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録について (2) 西東京市産業振興マスタープラン（中間まとめ）素案について (3) その他
会議資料の名称	資料1 西東京市産業振興マスタープラン（中間まとめ）素案 第4回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 第4回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録について</p> <p>議事録（案）の内容確認の際に、委員の方々からいただいたご指摘に基づいて行った修正（4点）について、事務局より説明。修正内容をご確認いただいた。</p> <p>(2) 西東京市産業振興マスタープラン（中間まとめ）素案について</p> <p>事務局より資料説明。なお、本日欠席の櫻井委員から予めいただいた修正したい箇所についても確認。</p> <p>○会長： 1章までが前段の話で2章からが各論、内容の話になっているので、範囲を区切って内容を確認していきたい。まず最初から。</p> <p>○委員： 高度成長期に急激に増えた人口が、今後どっと定年を迎えるという説明のグラフがある。市内に住んで市外に働きに行く人の例えば四分の一、1万5千人位が65歳で定年になったとしても、70歳、75歳くらいまでは元気に働ける。そういう人達を吸収することについて、その後で記述していない。ボランティア、アルバイトなどで活躍していただか</p>	

ないと話にならないと思う。サービス業にしても農業にしても、そういう人達を受け入れる場所が必要ではないか。

○会長：

その後の見解が盛り込まれていないということか。

○委員：

表の結果から予測される、時間に余裕ができる人への対策がない。正式な仕事でなくても、商工会や商店街、ボランティアなどに高齢者を取り込むシステムを盛り込まないといけない。高齢者事業団もあるが、そうでないものをもっと想定したほうがいいのではないか。

○委員：

市外に働きに行っている人が定年で戻った時に地域の産業の中で働く場合、一般にコミュニティビジネスやソーシャルビジネスなどに位置づけられてくると思う。援農ボランティアについては高齢者を想定したものではないと思うが、何かそのような受け皿が必要だろう。

○会長：

具体的に書くか？

○委員：

将来人口予測のグラフをみると、他市が減っていく中で西東京市だけは増加する予測になっている。これは自然増だけか。社会増はみていないか。西東京市の場合、住宅開発が進んでいるのでよそから転入があれば更に増える可能性があるので、この数字には社会増は入っていない、もっと増える可能性があるなどの注釈を書いてはどうか。

○委員：

各市産業振興関連についての予算を調べていただきありがたいが、前に事務局からいただいた西東京市の産業支援策の数値と異なっている。以前の資料によれば平成19年度で農業に2千万、商工業に1億2千万という値だった。しかし今日の表によると農業8千800万、商工業1億7千500万となっており、誤差というには大きすぎる。なぜか。

○事務局：

市役所の職員の人件費部分も入れないと正確な数字ではないと考え、人件費も含めた。また予算額と実績額の違いも若干ある。

○委員：

予算額ということでは多分これが正しい。（他の市と比べればこの値が適当、当初予算と決算ベースなど色々異なる等々、発言以外の意見あり）

○会長：

退職者の受け皿に戻りますが、27ページ最後の支援組織などの項目に少し謳うという

のはいかがか？

○委員：

人材も資源だと考えればということで、この意見を出した。

○委員：

「起業」という部分でNPOやコミュニティビジネスができて、高齢者の受け皿になれば、それが商店街や農業の役に立つ。項を起こすか27ページの創業部分に入れるか2通りある。

○委員：

27ページは「地域の顔、イメージづくり」という大きい題の範疇だ。19ページの「多面的な役割」のところでは退職者に対して就労の場を与えることが大事として記述し、市民の安全、安心に結びつくような形で捉えたらどうか。農業、ものづくりの後ろに入れるのが適切ではないか。

○会長：

枠組みとしては分野別でなく、総合的横断的なものとして記載するということがよいか。一項目立てたいと。

○委員：

8ページはまとめで、9ページが解説とのことだが、8ページを上から下まで読んでから9ページを読むと、同じことを2度読まされている気になる。

○会長：

右側は具体的に噛み砕いて、再度確認するということが。特に内容が問題なければこのままで。

○委員：

内容は問題ない。

○委員：

8ページの「業」は「ぎょう」なので、「ごう」と読まれないようにルビを振ったほうが良い。

○会長：

ではこれはルビを振ることにする。良ければ12～27ページに進みたい。

○委員：

その前に10ページに基本理念が3つ出されていて、その後商業でも各分野の関連計画、取組状況・課題というのがあるが、ここで出てくるのは基本理念に対する課題ではなく、今までやってきたことへの課題が書いてある。せっかく前に基本理念を挙げているのだから基本理念に対して現状こういう課題があるとしてももらいたい。でないと、結

局は、以前の基本計画や商店街振興プランなどで既にやってきた流れになってしまう。既成の概念がでてきて、新しい発想がでてこない。

○委員：

改めて読んでみると非常によく整理されているが、28, 29ページに12～27ページの内容が一覧になっているが、28ページには既に課題でなく取り組みの方向性が書いてある。「ブランド化を導く」とか「力を結集する」など、課題と方向性にほとんど同じことが書いてある。課題の部分には現状の欠点の方を書いたほうがいいのではないか。前回の会議で言えばよかったが、今回はじめて気づいた。組み替えになるが、ちょっとまとめればよいだけと思う。

○委員：

ギャップが見えるように書いたほうが良い。

○委員：

課題というより問題点に近い書き方がよい。

○委員：

基本理念が新しい目標なのだから。私たちがブレインストーミングで出した新しい大きい課題ももっとあったのではないか？前の古い、基本計画や振興プランで進めてきた事業の課題ばかり挙げられると、結論がその手直しで進めましょうということになってしまう。新しいものが出てきていないと思う。

○事務局：

整理すると、課題と取り組みはキャッチフレーズのような感じになっているのでこれと一緒にして、課題点は委員会で指摘された問題点で内容を補足していくことでもいいか。

○会長：

基本理念とは、「地域に根ざし、みんなに必要とされる 産業が育ち、育てるまち」ということで、これに対する課題としてまとめる。

○事務局：

話が戻るが3つの基本理念の件で、「地域に根ざし、みんなに必要とされる 産業が育ち、育てるまち」は言葉の定義として、概念的な意味合いがある。実際の理念は、四角囲みの中の「業」「多面的な役割」「地域の顔・イメージづくり」であり、この3項目で課題をまとめるという通認識でよいか。

○委員一堂：

(確認される)

○会員：

もう一度戻るが、16ページ商業の分野には、育ち育てるの分野の話しかあがっていな

い。その上の2つの事業も新しく作ってほしい。

○事務局：

その視点ももっている。なお、この産業振興マスタープランは、商店街振興プランの見直しも一部含む形でやらなければならない状態で、商店街振興プランでやっている事業を今後どうしていくかという点も議論していただこうと思っているため、こうした書き方になっているという面もある。

○会長：

少し作業は出るがこの辺の充実を。

○委員：

以前に商業振興の推進計画の中に参加したことがあるがその時町の商店は敷居が高い、というのが消費者の結論だった。それから10年近くたつが依然敷居が高いままで、新聞等で市民が参加できる行事を企画して町の人通りが倍増したという例を見るが、市民をどう巻き込んでいくかの部分が見えない。

○委員：

細かい話になるが13ページの上、「農産物の付加価値を高め、ブランド化を導く」とあるが順番が逆な気がする。狙いは付加価値を高めることでブランド化はひとつの手法。

○事務局：

それについては、検討させてほしい。

○委員：

ものづくり分野ハードとソフトのところで、ソフトがあまりにもない。アニメーションもそうだがコンテンツを作る産業で、情報関連もその中に入れられるが。

○委員：

この近くではシンエイ動画など。

○委員：

数字的には少ない。

○委員：

三鷹などに比べると少ない。

○委員：

どのくらいあるのか。

○委員：

こんなにあるのか、という感じでそれほど少くない。あるものは育てる、とそうで

ないとソフトという部分が欠けてしまう。ただ商工会などは接していないのでほとんど把握していないのではないか。

○委員：

何か連絡会のような、引っ張り込むこともあってもいいのではないか。何だったら事業所統計等で調べる。

○委員：

西東京市だけでなく、近隣も。杉並、練馬など。アニメだけとは言わないで。

○委員：

銀行等はソフトか。ひばりヶ丘の角は。

○委員：

あれは調査会社で、いろいろなことをやっている。

○委員：

届けない業者もいっぱいいる。

○委員：

申告しないとわからない。数が抑えられるのか？

○会長：

その他、PR、ホームページやITを使って情報をという話がヒヤリングで散見されたが、今回それが謳っていないのは、あたり前のことだからか？無理が無ければ入れてみたらどうか。最後の支援とかそのあたりで。

○事務局：

32ページ「効果的な情報発信」にあるが、前段でもう少しちりばめた方が良い。ここにつながるように。

○会長：

たとえば空き店舗のデータベースを作るといった話もあったので。

○事務局：

「効果的な情報発信」は「地域の顔」にしか入っていないので、1個おろして、一番下の支援組織の強化などベースの基本的な所として、位置づけを変える。

○会長：

それでは28, 29, 30の全体のまとめも含めて何かあれば。

○委員：

33ページ、まち歩きの「案内サインの充実」とあるが、商店街に銀色のポールを建て

るのはありがたいが、車がバックでぶつかったりしている。電柱や街路灯もあり、交叉点に3つも4つも棒がある。本当に人があれを見て目印になってあるいているのか。例えば産直の商店の中に置いたりした方がいいのではないか。あの銀色の看板だけ増えるのはどうかと思う。

○事務局：

観光案内表示的なところもある。たとえば地産地消推進店、ちょうちんを下げているお店とか、市にとってわかりやすいという意味合なので、必ずしも固定的な、道路的なものばかりではない。

○委員：

32ページは、表題が「産業振興を進めるための施策」とあるが、施策というのは行政がやる、と解釈していいのか。

○事務局：

主体はそう。実際にやるときは、市民や農家の場合もある。

○委員：

行政としては、商工会や農協も使ってこういうことをやっていこうということを実施というのであり、事業者が勝手にやるのは施策とは言わない。

○委員：

やはり、街あるきの部分は案内サインではなくて、違う言葉に代えて。施策の体系になってしまうので。違う表現がいいと思う。

○事務局：

わかりました。

○委員：

マスタープランを作って実施して、いい目標を作っても、またもう一度同じものを繰り返すというのは皆さん思っているようだ。最初からお願いしてることだが、マスタープランは、市民、事業者の協力がなければ実現しない。それらにつなぐ方法はパブコメもあるが、事業者にアンケートなどで意向、意欲、傾向をきいたほうがいい。施策をやる際も、事業者からもこのような結果をいただいている、ということがないと上で勝手に作ったことだろうと言われてしまう。お金はそれほどかからないと思うので、アンケートと言いながら意欲や約束を取り付けることを是非お願いしたい。

○会長：

来年度6回7回委員会で検討してはどうか。

○委員：

東大和市が昨年12月に全2067事業所にアンケートを配布し、698回収した。産業振興計画策定のための基礎調査として行い、回答事業所の中から15を選んでさらにヒヤリン

グを実施している。誰かが決めた計画でなく、自分たちも計画を作るのに参加しているということが大事。

○事務局：

現在の議会で審議している新年度予算の経費の中には、調査費も含んで計上している。

○委員：

アンケートをとるときは商工会を利用してほしい。

○委員：

商工会会員だけだと3割少しなので、NTT名簿などを使わざるを得ない。

○委員：

35ページに農産物の安定的な販路の確保、給食へのシステム整備を含むと書いてあるが、農業だけでなく商業の方も市の補助金など、なるべく市内の業者を使うようにしてもらえば、産業振興になっていくのでよろしくお願ひしたい。

○事務局：

パブコメは、33ページまでを想定している。34ページ以降の施策はあくまで参考例だ。

○委員：

そこに是非書いてもらいたい。これは例であるので、矛盾したことが書いてあってもよい。ものづくりのところには、新たな工場立地の探索を是非いれてほしい。商業のところには、重点商店街の設定と、補完としてはなバスルートというのも入れて欲しい。農業のところには、36ページ、固定資産税、相続税の負担軽減、それをしないと相続のために農地が減っていくのは避けられない。農地は課税保留されるが、屋敷が課税されるので農地を売るといのが現実問題として昨年何件かあった。その3点は、例としてでいいから、に入れておいてほしい。

○事務局：

固定資産税は市のものだが、相続税は軽減という意味合いをどうとらえるかは...

○会長：

この辺りは5月以降の検討で。

○事務局：

最初はあれもこれもで出し、最終的に絞るということで。

○委員：

現在の創業支援は、ものづくりより、商の方が圧倒的に多い。製造業は今年も多分一軒もなかった。開始以来、4件しかない。

○事務局：

これは事務局でも色々議論があった。ベースとして位置づけた方が適切かも知れない。先ほどの退職者の受け皿の件も。

○会長：

あと、「担い手」も共通項として全部にかかるものに。

○事務局：

その辺もあわせて整理する。まとめると、28, 29の課題の整理、高齢者の就労の場、ものづくりのソフト、「業」の読みがな、32ページの創業支援・担い手作りは共通項にまとめる。次年度以降の施策例として、工場立地の話、重点商店街、農業に関する税。あと、次年度の事業者アンケートの提案ということでよいか。

○委員：

農業、商業、工業に関して住んでいる市民はほとんど関係ない状況。市民を取り込む施策が弱い。

○委員：

産業振興の計画としてみると、そう弱くもない。

○事務局：

また、効果的情報発信についても、今後出していきたい。

(3) その他

○事務局：

今回出た意見を反映させたものをパブリックコメントに出す件につき、訂正は、会長・副会長一任ということでよろしいか。

○委員一堂：

(承認)

○委員：

次回は、パブコメの集計後。職員異動はないのか。

○事務局：

まだわからない。

次回日程調整

○事務局：

新年度第1回目は5月13日（木曜日）午後4時から開催する予定とする。詳細は追って連絡する。

○委員：
了承。